

JAPAN/MARC の UNIMARC との互換性およびタイム・ラグ  
JAPAN/MARC : Its Compatibility with  
UNIMARC and the Time-lag

上 田 修 一  
*Shu-ichi Ueda*  
長 島 敏 樹  
*Toshiki Nagashima*

*Résumé*

The international compatibility and time-lag of JAPAN/MARC (J/MARC) which the National Diet Library has distributed since 1981, were examined.

J/MARC is designed as conforming to UNIMARC, but it's not completely compatible with UNIMARC. This incomplete compatibility does not come from J/MARC, but UNIMARC, designed without any consideration about the Oriental characters such as the Japanese character. To process the Japanese bibliographic information in UNIMARC, linkages between the Kanji fields and Yomi (reading) fields have to introduce to UNIMARC. Some systems have been suggested in terms of this linkage, but there is no definite one.

The time-lag of J/MARC is actually about 3 months. Considering the situation that the Japanese legal deposit system does not work smoothly, it's very difficult to shorten this time-lag further. On the other hand, a prompt introduction of CIP is impossible. At the present stage, the use of some publication information files are the only way, but it can not resolve all problems.

- I. はじめに
- II. J/MARC の UNIMARC との互換性
  - A. 互換性維持のための要件
  - B. UNIMARC との比較
  - C. UNIMARC と日本語処理
- III. タイム・ラグとその対策
  - A. タイム・ラグの現状
  - B. タイム・ラグ短縮の方策
- IV. おわりに

---

上田修一：慶應義塾大学文学部図書館・情報学科，東京都港区三田2-15-45  
Shu-ichi Ueda, School of Library and Information Science, Keio University, 2-15-45, Mita, Minato-ku, Tokyo  
長島敏樹：慶應義塾大学三田研究教育情報センター整理課，東京都港区三田2-15-45  
Toshiki Nagashima, Mita Information Center, Keio University, 2-15-45, Mita, Minato-ku, Tokyo

## I. はじめに

1981年4月から頒布されているジャパン・マーク（以下「J/MARC」とする）は、すでに、金沢工業大学<sup>1),2)</sup>、筑波大学、広島大学<sup>3)</sup>、九州大学<sup>4)</sup>、図書館・情報大学<sup>5)</sup>等の大学図書館や国立国会図書館<sup>6)</sup>でオンライン検索、利用が行なわれている。

J/MARC は、国立国会図書館の業務機械化計画中の和図書システムの一環として、作成、提供されているが、J/MARC は、単なるデータベースとしてではなく、その意義をより広い文脈の中でとらえる必要がある。

J/MARC の意義は、おそらく二つの側面から考えることができる。ひとつは、IFLA の国際 MARC ネットワークとの結びつきであり、もうひとつの側面は、わが国の図書館機械化への影響である。J/MARC によってわが国は、国際 MARC ネットワークの中で、責務のひとつを果し、また発言権を得たことになる。一方、わが国における図書館の機械化は、ハウスキーピング処理から、書誌情報処理へ、個別業務の処理からトータルな処理へ、そして、共同分担目録システムの実現へと進展しつつある。この際に、基盤となる目録情報が、J/MARC によって提供されることになる。

LC/MARC が、初期に、いくつかの問題を抱えていたのと同様、頒布されはじめた J/MARC にも、多数の問題点がある。国立国会図書館の作成になるとは言え、J/MARC は、他のデータベースとは異なり、図書館界の共有物としての性格が強いことは明らかである。現在明らかになっている問題点を検討することは必要である。

本稿では、この検討作業を行なうことを意図しており、上記の二つの側面、すなわち他国の MARC との互換性(現実には UNIMARC との互換性)と、大学図書館を想定した共同分担目録システムからみた問題点で最も重要であるタイム・ラグについて述べることにする。論点は、フォーマットと運用面におき、記述に関する問題点にはふれない。

さて、J/MARC の問題点に関しては、すでに、石田<sup>7)</sup>、福島<sup>8)</sup>、小田<sup>9)</sup>らによって言及されている。

石田は、標準化の動向と J/MARC の具体的な問題点、外国人名の扱い、典拠、タイム・ラグ等について述べている。

福島は、東京都立中央図書館における登録年月日の時点での J/MARC の収録率は、21.8%であり、収録率が

50%を越えるのにその後約2カ月を要すること、国立国会図書館と都立中央図書館の受入れに時間差がないので、国立国会図書館における整理期間に相当する期間を待たなければ、都立中央図書館は、J/MARC のデータを利用できない等の諸点を報告している。

一方、小田らは、商用情報検索パッケージである FAIRS/I に、J/MARC を格納し、漢字モードで検索する方法を述べ、目録記入、フォーマット、典拠ファイル、情報の遅れ等の問題を論じている。論点は、多岐にわたっているが、J/MARC 批判の中心は、ISBD および UNIMARC との整合性にあると考えられる。

これらの論考に留意しつつ、最初に、フォーマットの国際的な互換性を、次いで、タイム・ラグを中心とした運用の問題について述べる。

なお、本稿では、レコードフォーマットに関する用語の用法と意味は、「科学技術情報流通技術基準・書誌的情報交換用レコードフォーマット(外形式)」<sup>10)</sup>(以下、「SIST 03」と省略)に従う。

## II. J/MARC の UNIMARC との互換性

### A. 互換性維持のための要件

はじめに、書誌情報ファイルを相互に交換するための要件について検討を試みることにする。

互換性を維持するには、理念的な立場と実務的な立場があることに留意しておく必要がある。理念的な立場では、磁気テープを相互に円滑に交換できるように、種々の合理的な標準を決めていくような、標準化にもとづくアプローチをとる。一方、実務的な立場では、

(1) 物理的に、磁気媒体を読みとることができる。

(2) 個々の最小の要素の識別ができる。

の2つの要件さえ満たせば、交換は行ないうるとするとし、あえて、標準化を必要としない。

実際に、既製の書誌情報ファイルを処理する場合、磁気媒体を読みとることができるならば、その後は、ソフトウェア(プログラム)によって、内部フォーマットへと変換しうる。フォーマットの相違や、交換符号の相違は、個々の要素さえ識別できるようになっていれば、交換テーブルの利用等によって解決ができる。そして、現に、多くのファイルは、このようにして処理されている。

しかし、このような方法は、便宜的なものであり、ソフトウェア作成の熟練に頼っており効率的でない。合理的な標準が必要である。

さて、2つのデータ処理システム間で、磁気媒体を用

第1表 各標準、マニュアル等のカバーする範囲

注：( )内は引用されているものを示す

|  | ISO             | IFLA                         | 米<br>国<br>議<br>会<br>館<br>図<br>書  | JIS         | SIST   | 国<br>立<br>国<br>会<br>館<br>図<br>書 |  |
|--|-----------------|------------------------------|----------------------------------|-------------|--|---------------------------------|--|
| 磁気テープの記録様式   | ISO 1863-1971   |                              |                                  | C 6281-1980 |  |                                 |  |
|  | ISO 3788-1976   |                              |                                  | C 6282-1975 |  |                                 |  |
| 情報交換用符号  | ISO 646-1973    |                              |                                  | C 6220-1976 | (C 6220-1976)                                |                                 |  |
|  | ISO 2022-1973   | (ISO 2022-1973)              |                                  | C 6228-1975 | (C 6228-1975)                                | EBCDIC                          |  |
|  |                 |                              |                                  | C 6226-1978 | (C 6226-1978)                                | (C 6226-1978)                   |  |
|  |                 |                              |                                  | C 6225-1979 | (C 6225-1979)                                | (C 6225-1979)                   |  |
| 磁気テープのラベルとファイル構造   | ISO/R 1011-1969 |                              |                                  | C 6245-1981 | (C 6245-1981)                                |                                 |  |
| レコード・フォーマット  | ISO 2709-1981   | (ISO 2709-1981)              | LC/MARC <sup>(13)</sup><br>マニユアル |             | SIST 03-1980                                 | J/MARC <sup>(16)</sup><br>マニユアル |  |
| Content designator   |                 | UNIMARC <sup>(11),(12)</sup> | LC/MARC<br>マニユアル                 |             | SIST 04-1983 <sup>(14)</sup>                 | J/MARC<br>マニユアル                 |  |
| 書誌的情報 a) 番号付け (ISBN)<br>(ISSN)<br>b) 日付コード<br>言語コード<br>国名コード<br>c) コード化情報<br>d) 記述<br>e) アクセス・ポイント | ISO 2108-1709   |                              |                                  |             |  |                                 |  |
|  | ISO 3297-1759   |                              |                                  |             |  |                                 |  |
|  | ISO 3166-1974   | (ISO 3166-1974)              | LC/MARC<br>マニユアル                 | C 6262-1977 | (C 6262-1977)                                | J/MARC<br>マニユアル<br>(LC)         |  |
|  |                 | UNIMARC<br>ISBDS             |                                  |             | (ISO 3166-1974)                              | J/MARC<br>マニユアル                 |  |
|  |                 | UNIMARC                      | AACR II                          |             | SIST 02-1980 <sup>(15)</sup><br>SIST 04-1983 | NCR 新版予備版<br>J/MARC<br>マニユアル    |  |

## JAPAN/MARC の UNIMARC との互換性およびタイム・ラグ

いファイルの交換を行なう際にいくつかの標準のレベルが想定できる。検討を簡略するために、磁気媒体を磁気テープに限定する。

ファイル交換の互換性を保つためには、次のようなレベルを設定できる。

- 1) 磁気テープの記録様式
- 2) 情報交換用符号
- 3) 磁気テープのファイル構造
- 4) レコード・フォーマット
- 5) Content Designator
- 6) 書誌情報
  - a) 番号付け
  - b) 日付, 言語, 国名コードなど
  - c) コード化情報
  - d) 記述
  - e) アクセス・ポイント

表1は、ISO, IFLA, 米国議会図書館, JIS, SIST, 国立国会図書館の各規格基準, 文書等のカバーする範囲を示している。

磁気テープの記録様式, ラベル, 情報交換用符号, ファイル構造に関しては, ISO, JIS の規格があり, UNIMARC II や SIST では, これらを引用している。レコード・フォーマットとは, ISO と SIST によって規定されているが, LC/MARC や J/MARC では, ほぼ同じ内容を独自に規定している。content designator は, 国際規格がなく, それぞれが独自に規定している。

書誌情報に関しては, ISBN, ISSN のように, 国際的に普及しているものもあれば, 本来, 各国で制定すべき記述規則まで多様である。

このように, レコード・フォーマットのレベルまでは, わが国も含めて, ほぼ合意ができていと考えられる。但し, 漢字の交換符号は, 国内で標準化されているにすぎない。

J/MARC の国際的互換性を知るひとつの手段は, UNIMARC との比較である。

### B. UNIMARC との比較

“JAPAN/MARC マニュアル”には, J/MARC は, UNIMARC に準拠していることが明記され, 「現在のところ, 西欧の言語による書誌レコードを主にしている UNIMARC フォーマットになじまない日本語の特徴, 漢字データとその読みを示す『カナ』データとのリンクを処理するため, 特別な配慮を加えている」と述べられて

ている。

このマニュアルと, 石田, 小田らによって述べられている UNIMARC との相違を整理すると, 次のようになる。

- (1) 記述ブロックとアクセス・ポイント・ブロックのデータフィールドをリンクさせるために, タグの末尾1桁に意味づけを行なっている。
- (2) 書誌レベル別にタグの意味づけを行なっている。
- (3) 識別子に, サブフィールド部の長さや文字符号を示すコードを入れている。
- (4) 英数字の文字符号等に EBCDIC を用いている。
- (5) タグ200をリピート(繰り返し)している。
- (6) タグが一致していない。(275, 600, 658など)
- (7) タグ100の必須とされている一般的処理データの多くの項目が省略されている。
- (8) タグ200, 7××で, 知的責任のあり方による区分, 個人か団体かの区分がなされていない。
- (9) 指示子を用いていない。

こうした点から, 小田らは, 「J/MARC のフォーマットは, UNIMARC のフォーマットからずれてしまっている」と述べている。

UNIMARC には, 「フォーマット設計上の指針」として, 9項目があがっている。この範囲では, J/MARC は, 大きく異なっている点はない。しかし, UNIMARC で定めた個々の規定とは大きく異なっており, UNIMARC を処理するためのプログラムが仮にあったとしても, J/MARC の磁気テープを扱うことはできない。J/MARC は UNIMARC に準拠しているとは, やはり言い難い。

つまり, J/MARC には, UNIMARC との互換性は無い。UNIMARC を国際的な標準と認めるならば, 現在の J/MARC は, 国際的な互換性を持っていない。

### C. UNIMARC と日本語処理

本来, UNIMARC は, 国際的な書誌情報交換用のものであり, J/MARC は, 国内配布用のフォーマットであるから, UNIMARC と一致していなくてもよい, とする考え方もありうる。「UNIMARC に準拠する」としているにもかかわらず, 国立国会図書館は, 実際には, こうした立場をとっていると考えられる。この立場にたっているならば, 国外との書誌情報交換のためには, 国立国会図書館が, J/MARC から UNIMARC に変換するプログラムを作成して提供すればよい。

この場合, 小田らが提唱している形で, 漢字と読みを



JAPAN/MARC の UNIMARC との互換性およびタイム・ラグ

な立場をとるかがある。つまり、理念的に、標準的な UNIMARC の考え方に近づけようとするなら、同一フィールド中で、読みとひとつのサブフィールドとする(上記(2))方がよい。一方、利用上の便宜を考えるならば、漢字と読みは、異なるフィールドにしておいた方が、扱いやすい。しかし、この方法では、フィールド間のリンクを行なう必要があるので、タグによるリンク(上記(1))や指示子によるリンク(上記(3))という複雑な処理を要するにいたる。また、タグによるリンクでは、一定回数以上の繰り返しができず、指示子によるリンクでは、指示子の用法を限定することになる。

第二に符号系をどこで指示するかが問題となる。データ部は、全て2バイト系とすることを始め、一定のタグは、2バイト系とする、フィールド単位で指示する(上記(3))、サブフィールド単位で指示する(上記(1))など

の方法がある。最も柔軟であるのは、J/MARC で行なっているように、識別子に、符号系の指示を含めておく方法であろう。仮に、他の国で、コード化情報と、1バイト系のデータのみを用いようとした時にも、対応できる。しかし、この方法は、識別子を2バイトに決めている UNIMARC に合致しない。

現状は、わが国においても試行錯誤の状態であり、具体的な提案を行なう根拠は乏しい。こうした面での、実験や評価が、わが国の国内標準の確立のために、早急に行なわれなければならない。

そして、その結果をもとに、UNIMARC の改訂を提唱しつづけなければならない。

III. タイム・ラグとその対策

A. タイム・ラグの現状

表2 タイム・ラグ(1981年1号~50号)

| タイム・ラグ | 件数    | 比率(%) | 累積     | 累積比率(%) |
|--------|-------|-------|--------|---------|
| 0月     | 21    | 0.06  | 21     | 0.06    |
| 1      | 257   | 0.77  | 278    | 0.83    |
| 2      | 6,081 | 18.11 | 6,359  | 18.94   |
| 3      | 9,469 | 28.20 | 15,828 | 47.14   |
| 4      | 2,728 | 8.12  | 18,556 | 55.26   |
| 5      | 2,476 | 7.37  | 21,032 | 62.63   |
| 6      | 2,438 | 7.26  | 23,470 | 69.89   |
| 7      | 1,947 | 5.80  | 25,417 | 75.69   |
| 8      | 1,562 | 4.65  | 26,979 | 80.34   |
| 9      | 1,254 | 3.73  | 28,233 | 84.07   |
| 10     | 860   | 2.56  | 29,093 | 86.63   |
| 11     | 529   | 1.58  | 29,622 | 88.21   |
| 12     | 470   | 1.40  | 30,092 | 89.61   |
| 13     | 328   | 0.98  | 30,420 | 90.59   |
| 14     | 216   | 0.64  | 30,636 | 91.23   |
| 15     | 179   | 0.53  | 30,815 | 91.76   |
| 16     | 162   | 0.48  | 30,977 | 92.24   |
| 17     | 288   | 0.86  | 31,265 | 93.10   |
| 18     | 131   | 0.39  | 31,396 | 93.49   |
| 19     | 121   | 0.36  | 31,517 | 93.85   |
| 20     | 125   | 0.37  | 31,642 | 94.22   |
| 21     | 100   | 0.30  | 31,742 | 94.52   |
| 22     | 84    | 0.25  | 31,826 | 94.77   |
| 23     | 111   | 0.33  | 31,937 | 95.10   |
| 24     | 74    | 0.22  | 32,011 | 95.32   |
| 25+    | 1,565 | 4.66  | 33,576 | 100.00  |

表3 タイム・ラグ(1982年1号~33号)

| タイム・ラグ | 件数    | 比率(%) | 累積     | 累積比率(%) |
|--------|-------|-------|--------|---------|
| 0月     | 15    | 0.06  | 15     | 0.06    |
| 1      | 350   | 1.43  | 365    | 1.49    |
| 2      | 5,424 | 22.23 | 5,789  | 23.72   |
| 3      | 5,344 | 21.91 | 11,133 | 45.63   |
| 4      | 1,349 | 5.53  | 12,482 | 51.16   |
| 5      | 1,900 | 7.79  | 14,382 | 58.95   |
| 6      | 2,035 | 8.34  | 16,417 | 67.29   |
| 7      | 1,561 | 6.40  | 17,978 | 73.69   |
| 8      | 1,267 | 5.19  | 19,245 | 78.88   |
| 9      | 849   | 3.48  | 20,094 | 82.36   |
| 10     | 616   | 2.53  | 20,710 | 84.89   |
| 11     | 415   | 1.70  | 21,125 | 86.59   |
| 12     | 293   | 1.20  | 21,418 | 87.79   |
| 13     | 218   | 0.89  | 21,636 | 88.68   |
| 14     | 177   | 0.73  | 21,813 | 89.41   |
| 15     | 173   | 0.71  | 21,986 | 90.12   |
| 16     | 162   | 0.66  | 22,148 | 90.78   |
| 17     | 107   | 0.44  | 22,255 | 91.22   |
| 18     | 78    | 0.32  | 22,333 | 91.54   |
| 19     | 78    | 0.32  | 22,411 | 91.86   |
| 20     | 76    | 0.31  | 22,487 | 92.17   |
| 21     | 75    | 0.31  | 22,562 | 92.48   |
| 22     | 110   | 0.45  | 22,672 | 92.93   |
| 23     | 63    | 0.26  | 22,735 | 93.19   |
| 24     | 43    | 0.18  | 22,778 | 93.37   |
| 25+    | 1,617 | 6.63  | 24,395 | 100.00  |

当初懸念されたように、やはり、タイム・ラグは、利用面における J/MARC の大きな問題となっている。前述のように、東京都立中央図書館における調査結果が、福島によって報告されている。

基礎的なデータを得るために、まず、J/MARC に収録されている図書の出版年月と J/MARC 収録年月との比較を行なった。

これは、J/MARC に記録されている出版年月と収録年月をもとに集計している。対象としたのは、J/MARC の1981年の1年間分（1号～50号）および、1982年の1号から33号までである。調査の際に、国立国会図書館における入手方法が一般の図書と異なる官庁刊行物と、入力処理段階で優先度が低くなっている児童図書と各種資格試験関係の図書は除外した。その結果、1981年分として、33,576件、1982年分として、24,395件が調査対象となっている。

表2、表3が、調査結果である。出版年月でみた場合、全体の半数が、3カ月強の間に入力されている。しかし、1カ月以内のものは極めて少なく、全体の9割が、入力されるまでに、1年半近くを要している。さらに25カ月以上の差があるものが、約5%存在している。

1981年と1982年を比較すると、ピークが3カ月から2カ月へと移っており、多少の改善がみられる。しかし、25カ月以上の差がある図書は、増加している。

この調査は、図書に記載されている出版年月をもとにしているが、出版年月では、最大1カ月の誤差があること、JAPAN/MARC への入力年月日から、磁気テープが到着するまでに10日ほどはかかることから、現実には、平均して、4カ月ほどのタイム・ラグがあると考えるのが妥当であろう。

次に、大学図書館の例として、慶應義塾大学三田研究教育情報センターに受入れられた図書が、J/MARC に入力されるまでのタイム・ラグを調査した。

これは、各図書について、同センターの登録日と、その図書の J/MARC の入力年月日とを調査したものであるが、すでに、JAPAN/MARC の頒布開始以前に印刷カードが作成されているもの等の出版年の古い図書は除外した。調査対象は、1981年5月21日から9月9日まで登録された図書中の1,430件である。

調査結果を、図2に示した。登録日以前に入力されていた図書は、全体の23.5%であり、5割に達するのに約40日、8割に達するまでには、約75日を要している。最

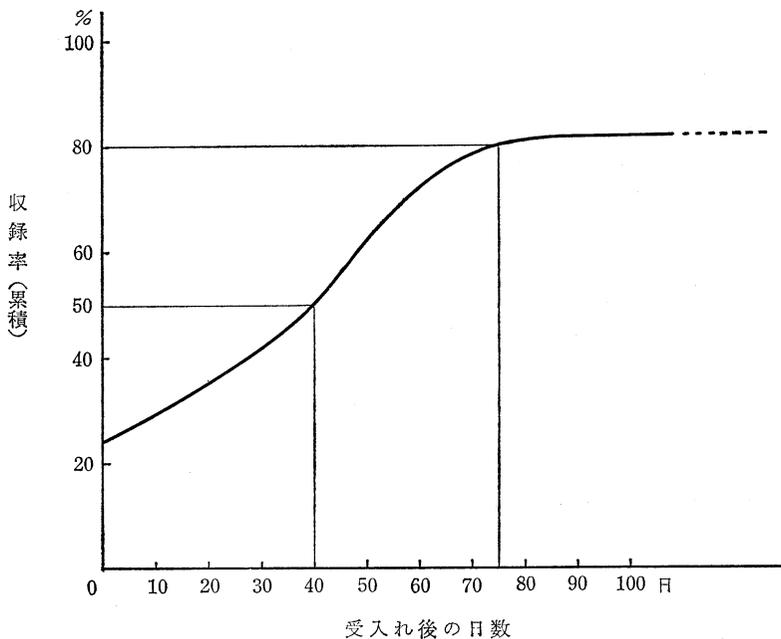


図2 慶大三田情報センターの受入日と J/MARC 収録日のタイム・ラグ

最終的な収録率は85%程度とみなしうる。

この結果は、都立中央図書館の調査結果（ヒット率20%強、最終的収録率約90%）とよく一致していると言えよう。

以上の結果から、J/MARC のタイム・ラグは、平均して3カ月程度はあり、大学図書館でも、公共図書館においても、ヒット率、すなわち、受入れた図書がJ/MARC ですぐに検索しうる確率は、2割強であるにすぎないことが明らかになった。さらに、長期間待ったとしても、1割強の図書については、J/MARC から、書誌情報を得ることはできない。

#### B. タイム・ラグ短縮のための方策

J/MARC のヒット率を高めるためには、出版から入力までの日数を短縮する必要がある。これには、出版から納本までの日数の短縮と国立国会図書館における受入れ後の処理日数の短縮がなされなければならないが、後者については、一定の日数は必要であるため、短縮には限界がある。一方、納本までの日数は、改善の余地がある。しかし、現状のように、出版社からのすみやかな納本を期待できず、大手取次に頼っている状態では、実際的には、早急な改善を期待できない。

最も望ましいのは、CIP (Cataloging In Publication) の導入であろう<sup>17)</sup>。CIP については、すでに、オーストラリア、ブラジル、カナダ、コロンビア、西独、オーストリア、東独、ハンガリー、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、英国、米国、ソ連、ベネズエラの各国で実施されている<sup>18)</sup>。CIP は、出版社の協力がなければ、行ない得ないが、ISBN への強い抵抗、納本制度への無関心をみる限り、CIP の早急な実施など考えられない。

CIP により得られる書誌情報の代替となるものとして、取次、あるいは、出版団体の作成する出版情報ファイルへの期待があり。すでに、日販による「ニッパン・マーク」と図書館流通センターの「TRC/MARC」とが存在し、多くの図書館で利用されるに至っている。

これらの機関は、配本される前に、出版社から図書を手取りできるという利点を生かし、短期間のうちに書誌レコードを作成し、配布している。その結果、タイム・ラグが J/MARC よりも短かいと言われている。

これを確かめるために、J/MARC とニッパン・マークとの入力日を比較した。

J/MARC の1981年分とニッパン・マークの1981年4月～8月分をもとに、同一の図書の入力日の差を求め

た。同一図書の同定はISBNを用いて行ない、両ファイルから、830件のサンプルを得た。

図3に、調査結果を示した。いずれのファイルも、入力日のサイクルが、ほぼ1週間であるので、7日間おきに集計している。この830件中には、ニッパン・マークよりも J/MARC の方に先に入力された図書は皆無であった。従って図3は、ニッパン・マークの入力日と J/MARC の入力日の差をそのまま表わしている。

入力日の差が、50日から70日の図書は、全体の約70%を占めている。120日から140日にも小さなピークがみられるが、これは、J/MARC の入力処理の優先度の低い図書が影響しているとみられる。

平均して、60日短縮されているわけであるから、J/MARC とニッパン・マークを併用すれば、ヒット率は、7割位まで高まると考えられ、ニッパン・マークは、この面で大きな貢献をすることになる。

おそらく、TRC/MARC も同様な結果となるであろう。

こうした、出版情報ファイルには、収録率と内容の問題が残されている。収録率に関しては、調査を行っていないが、J/MARC に及ばないとしても、主要出版社の刊行物に関しては、ほとんど収録していると考えられる。

内容が最も大きな問題である。表4は、J/MARC とニッパン・マーク、TRC/MARC の収録項目を示したものであるが、収録項目数では、むしろ出版情報ファイルの方が J/MARC よりも豊富である。質の面では、目的の異なった J/MARC とこれらの出版情報ファイルとを比較するまでもない。国立国会図書館は、確立された目録記録を作成する責務があり、この機能を他の機関が果たすことはできない。出版情報ファイルは、あくまでも一時的な代替物である。

このように、タイム・ラグを短縮するには、出版情報ファイルを利用するのが、現実的な解決策である。ここでは、具体的なファイル名をあげているが、発足が遅れている「出版資料情報センター」のファイルであっても、機能的には同様である。

しかし、この方法をとった場合には、出版情報ファイルから得たレコードは、J/MARC の該当レコードが配布された時点で、このレコードに置き換える必要が生ずる。同一レコードの判定の手段としては、ISBN が最適であるが、ISBN の付与率が充分でないため、上記の調査のように、一致するものは少ない。また、記述する際の

書誌レベルの相違もあり、置き換えを、全て自動化するわけにもいかないという実務上の問題は残されている。

IV. おわりに

J/MARC を、書誌情報の理念的な国際交換用フォーマットである UNIMARC に変換し国際的な互換性を持たせることはできない。もちろん、これは、特定の外国

の図書館が処理できないという意味ではない。MARC と 2 バイトコードの知識のあるプログラマがいれば、どこでも扱いうる。

この原因は、UNIMARC の側の東洋の文字への配慮の欠如にある。わが国としては、J/MARC を、現状のままの UNIMARC に合わせるよりも、UNIMARC 自体の改訂を求めるべきである。この際、日本語特有の諸

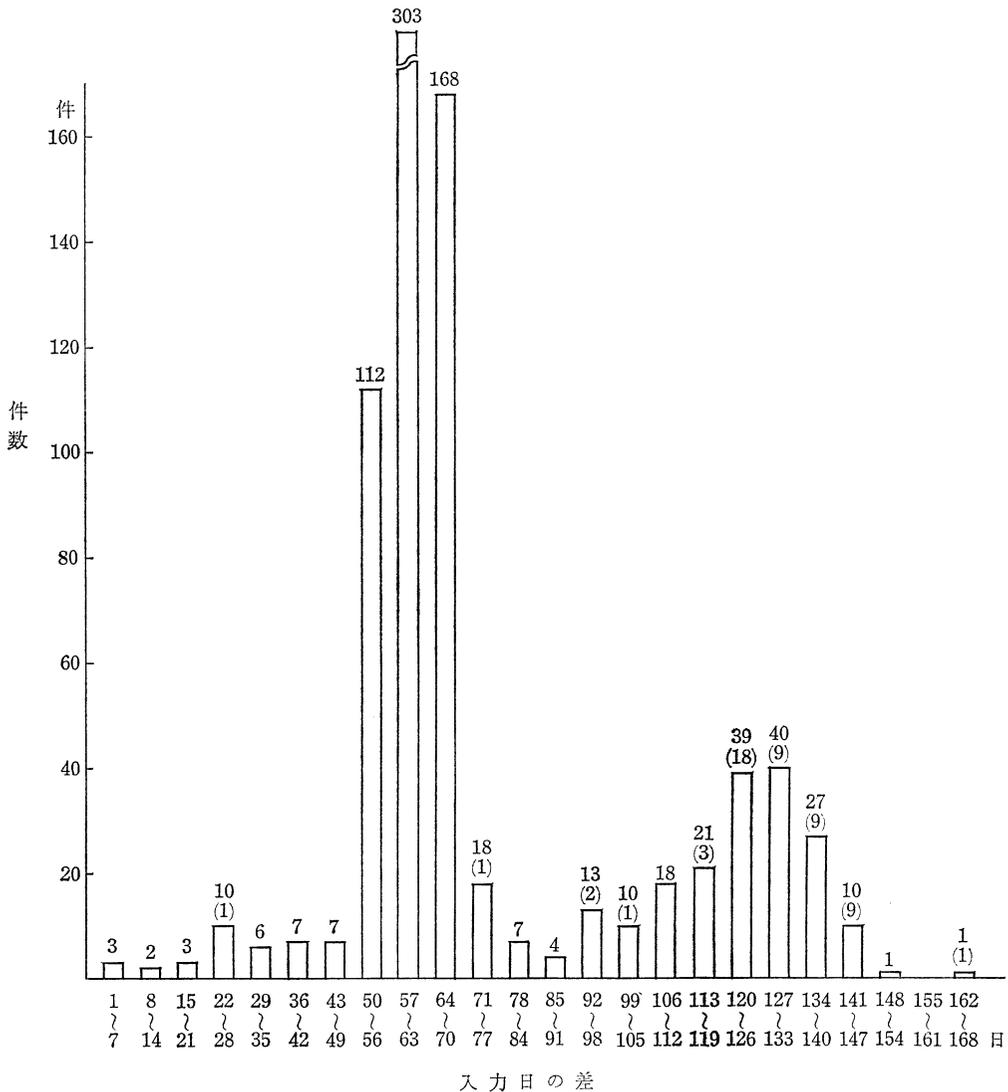


図3 J/MARC とニッパン・マークの入力日の差  
注：( )内は、児童図書、各種試験関係図書の内数

JAPAN/MARC の UNIMARC との互換性およびタイム・ラグ

表4 J/MARC, ニッパン・マーク, TRC/MARC の収録項目

出典: 「JAPAN/MARC マニュアル」「ニッパン・マークシステム  
利用へのご案内」「TRC コンパスシリーズ2」

|   | J/MARC                    |                  |             | ニッパン・マーク         |                  |             | TRC/MARC              |
|---|---------------------------|------------------|-------------|------------------|------------------|-------------|-----------------------|
|   | 英数字・漢字形                   | カタカナ形            | ローマ字形       | 漢字               | カナ               | 数字          |                       |
| ISBN<br>JP 番号<br>日本書籍コード<br>管理番号                          | ○<br>○<br>○               |                  |             |                  |                  | ○<br>○<br>○ | ○<br><br>○            |
| 刊行年<br>対象利用者<br>官庁刊行物コード<br>改変レコードコード<br>テキストの言語<br>原文の言語 | ○<br>コード<br>○<br>○<br>コード |                  |             | ○                |                  |             |                       |
| 書名<br>副書名<br>冠称<br>巻次, 回次, 年次等<br>著者名<br>資料種別表示           | ○<br>○<br><br>○<br>○<br>○ |                  |             | ○<br>○<br>○<br>○ | ○<br>○<br><br>○  |             | ○<br>○<br><br>○<br>○  |
| 版表示   | ○                         |                  |             | ○                |                  |             |                       |
| 出版地<br>出版者<br>出版年月<br>発売地<br>発売者<br>発売年月                  | ○<br>○<br>○<br>○          |                  |             | ○<br>○<br><br>○  | ○<br><br><br>○   |             | ○<br>○<br>○<br>○<br>○ |
| ページ又は冊数<br>大きさ<br>図版                                      | ○<br>○                    |                  |             | ○                | ○<br>○           |             | ○<br>○<br>○           |
| 叢書名<br>叢書番号<br>副叢書名<br>副叢書番号<br>各巻の書名, 著者名                | ○<br>○<br>○<br>○<br>○     |                  |             | ○<br>○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○<br>○ |             | ○<br>○<br>○<br>○<br>○ |
| 一般注記<br>翻訳書の原書名<br>裁丁<br>定価<br>内容細目                       | ○<br>○<br>○<br>○          |                  |             | ○<br>○<br><br>○  |                  | ○           | ○<br>○<br><br>○       |
| 版の著者名<br>書名の読み<br>叢書名の読み<br>各巻書名, 著者名の読み<br>個人件名<br>一般件名  | ○<br>○<br>○<br>○<br>○     | ○<br>○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ |                  | ○<br>○<br>○<br>○ |             | ○<br>○<br>○<br>○<br>○ |
| NDC 8 版<br>NDC 7 版<br>NDL 分類<br>NDL 請求記号<br>図書記号<br>巻冊記号  | ○<br>○<br>○<br>○          | ○                | ○           |                  |                  | ○           | ○<br>○<br><br>○<br>○  |
| 著者名の読み  | ○                         | ○                | ○           |                  | ○                |             |                       |

問題(本稿では、漢字とその読みをとりあげたが)を UNIMARC の枠組の中で解決する方法を考察し、提唱するのは、わが国の責任となる。残念ながら、現状の J/MARC は、よく考えられているとしても、漢字と読みの問題をとりあげてみても判るように、最も合理的なフォーマットを提示しているわけではない。これは、国立国会図書館の個有の問題ではなく、日本語の書誌情報を扱う機関全体が、検討する必要がある課題である。繰り返しになるが、実務的な解決策の必要性を述べているのではない。

運用面の問題として、タイム・ラグをとりあげたが、既往調査の結果と同じく、新刊図書については、J/MARC は、不十分なヒット率しか示していない。図書館が購入するのは、新刊図書とは限らないので、国立国会図書館が計画しているように、昭和44年以降の遡及ファイルも提供されるようになれば、より利用しやすくなるであろう。

タイム・ラグの問題を解決するには、現状では、出版情報ファイルを使うのが、妥当と考えられる。しかし、大規模な共同目録システムを除き、個々の図書館が、J/MARC と出版情報ファイルとを維持していくのは、大きな困難を伴うと予想される。

本来は、CIP の導入などの、根本的な対策がなされるべきであろう。

本稿をまとめるにあたり、国立国会図書館の田村貴代子氏、日本原子力研究所の仲本秀四郎氏、国文学研究資料館の内藤衛亮氏をはじめとする多くの方々との討議から、様々な示唆を得た。末尾となってしまったが改めて謝意を表したい。

なお、この研究、調査は、文部省科学研究費試験研究(課題番号56880004)にもとづくものである。

- 1) 寺下陽一, 北村 彰, 林 昭彦, 古田雅裕. "JAPAN-MARC データによる書誌検索システム". 図書館雑誌. Vol. 74, No. 6, p. 274-276 (1980).
- 2) 寺下陽一, 北村 彰. "JAPAN/MARC を用いた図書館 IR 実験システム". 情報管理. Vol. 24, No. 6, p. 580-586 (1981).
- 3) 久保為武. "広島大学附属 図書館 和書目録システムの概要". 大学図書館研究. No. 21, p. 57-68 (1982).
- 4) 二宮純恭, 園田国昭, 浜崎修一, 古賀幸成. "図書館トータルシステムの電算化について". 大学図書館研究. No. 10, p. 22-35 (1982).
- 5) 山本毅雄. "図書館情報大学の情報システムについて". 情報管理. Vol. 25, No. 11, p. 985-991 (1983).
- 6) 田村貴代子, 飯野敏章. "国立国会図書館の漢字オンライン情報検索システムの概要". 情報管理. Vol. 25, No. 5, p. 418-428 (1982).
- 7) 石田俊郎. "JAPAN/MARC の問題点". 図書館界. Vol. 33, No. 3, p. 134-137 (1981).
- 8) 福島寿男. "JAPAN/MARC のタイム・ラグ". 図書館学会年報. Vol. 28, No. 3, p. 127-130 (1982).
- 9) 小田泰正, 荒木雄豪, 平木しげ子, 今井恒雄, 石田俊雄, 白本正二. "JAPAN/MARC の利用システムとその問題点". 図書館界. Vol. 34, No. 4, p. 299-321 (1982).
- 10) 科学技術情報流通基準検討会. "SIST 03 書誌の情報交換用レコードフォーマット(外形式)". 東京, 日本科学技術情報センター, 1980. 9 p.
- 11) International Federation of Library Associations and Institutions. 国立国会図書館業務機械化室訳. "UNIMARC ユニバーサル MARC フォーマット". 東京, 国立国会図書館業務機械化室, 1977, 109 p. (機械化シリーズ No. 2)
- 12) International Federation of Library Associations and Institutions. "UNIMARC: Universal MARC format". 2nd ed. London, IFLA International Office for UBC, 1980, 131 p.
- 13) Library of Congress, Automated Systems office "MARC formats for bibliographic data". Washington, D.C., Library of Congress, 1980.
- 14) 科学技術情報流通技術基準検討会. "SIST 04 書誌の情報交換用レコードフォーマット(内形式)(案)". 東京, 日本科学技術情報センター, 1980, 47 p.
- 15) 科学技術情報流通技術基準検討会. "SIST 02 書誌的情報の記述". 東京, 日本科学技術情報センター, 1980, 34 p.
- 16) 国立国会図書館. "JAPAN/MARC マニュアル". 東京, 日本図書館協会, 1981, 61p. (ISBN 4-87582-002-X)
- 17) 福島寿男. "MARC データベースにおける CIP の役割". 図書館学会年報. Vol. 28, No. 2, p. 89-91 (1982).
- 18) IFLA International Office for UBC. "Standard practices in the preparation of bibliographic records". London, IFLA International Office for UBC, 1982, 46 p. (The IFLA International Office for UBC Occasional Papers. no. 9)